

法 聲

曹洞宗新潟県第四宗務所 布教師会会報

発行者 吳 定明

編集所 新潟市秋葉区新町2-5-51 観音寺内

題字 法聲 (ほうせい) 渡邊宣昭師

ご挨拶



第四宗務所布教師会会長
正壽寺 吳 定明

「あいさつ」



第四宗務所所長
観音寺 阿部 正機

酒や思想におぼれるな

「不酤酒戒」・（お酒を飲むな）という戒律があります。仏様の心（佛性）を失わないようにする為です。

仏教は、慈悲心と知恵を大切にします。欲望に心が濁り理性的な判断ができなくなる事を嫌うからです。

江戸中期の伊勢貞丈「安斎隨筆」に「一杯は人酒を飲む、二杯は酒酒を飲む、三杯は酒人を飲む」諺がある。その意味は、自分が酒を飲む、量がが増えて酒が酒を飲む、やがて酒に人が飲まれてるといふ戒めです。

大智度論に酒の三十五の過失が示されている。①現世の財物を無益に失う。酔えば心は無節操となり、節度がなくなる。②万病を引き起こす。③争いの原因となる。④裸体となって恥じる事がない。⑤悪い評判がたつて尊敬されない。⑥智慧が覆い隠される。⑦所有している物を失う。⑧隠すべき事を、人に向かって話す。⑨仕事に失敗して成功しない。⑩酔いが愁いの種となる。失態を重ね、醒めればこれを慚愧し憂愁する。⑪体力が次第に減少する。⑫身体を壊す。⑬から⑳まで、父・母・沙門・婆羅門・目上の者・仏陀・法・僧伽を敬わない。㉑悪人と親交する。㉒善人と疎遠になる。㉓破戒の人となる。㉔自らに対して恥じず、他に対して恥じる事がない。㉕身心を制御しない。㉖性欲に身をまかせて放逸する。㉗人に忌み嫌われて、好意的な態度をとられない。㉘社会的に親族や、賢人・賢者達から見捨てられる。㉙悪事を行う。㉚善なる行為・思想を捨て去る。㉛智慧正しき人から信用されない。酒は放逸なもの。㉜涅槃から遠ざかる。㉝狂癡の原因となる。㉞死後は捺落迦に行く。㉟もし生まれ変わっても、良き縁を得られないとは、素直に生きる事である。

酒に溺れない

合掌

宗務所の四年任期も、残すところ十カ月となりました。山登りは、登山から下山するまでを言い、お預かりしている宗務所も登山に例えるなら下山に入っています。「下り坂には下り坂の風光がある」（仏教詩人榎本栄一）との言葉通り、下りを決してマイナスに捉えるのではなく、三年間脇目も振らずに懸命に登ってきた経験値を携えて、今まで見たことのない下りならでの素敵で大切な景色を見させていただき、登りの時には味わえなかった喜びを享受し、下り坂の風光を楽しみながらしっかりと残りの歩みを進めたいと思います。

昨年の「法聲」の原稿の結びに、「第四宗務所布教師会では、管内宗侶である多くの皆さまの入会を希望しております。ともに布教の研鑽と交流を深めるため、いま・ここから自らの布教の扉を開き、自分の歩幅で布教の歩みを進めてまいりますか。入会をお待ちしています。」と会員の呼びかけをいたしました。その想いを含め、この度布教師会の運営の見直しをさせていただいております。

具体的には、会員各位からの年会費の徴収を止め、宗務所費の補助金を増額し運営するという事。その主たる理由は、「管内の宗侶（布教師）は管内で育てる」ことにあります。今僧侶に求められているものは、間違いなく布教による寺檀関係の構築であり地域に根付くお寺の存在であります。そこで管内寺院全員で応援し、管内の布教畑がより豊かになることは、管内寺院へも布教の還元があり、「持続可能な寺院と檀信徒」へと繋がるものと確信します。

但し、各研修会の当日参加費千円は徴収いたします。これは、応援いただいている事への「寄り添う心」であり、会員相互の情報交換や知識の習得への意識づけともなるものであります。

第四宗務所布教師会は、「管内の宗侶（布教師）は管内で育てる」。管内寺院みんなで力を合わせ、管内の布教力を育んでまいります。

結びに、第四宗務所管内寺院各位のご法助をお願い申し上げます、ご挨拶いたします。

合掌

第四宗務所布教師会夏季研修会



講師 小島 正芳 氏

全国良寛会会長

演題 『良寛の生涯と逸話』

1. 新潟県人が最も愛する「良寛」という存在

小島正芳氏は、五十年以上にわたり良寛を研究し続けてきた専門家です。小島氏は、良寛が新潟県で最も愛される偉人である理由として、新潟県人が権力や富よりも、地道に下向きに生きた人間を高く評価する独自の視点を持っていることを挙げています。良寛の偉大さの究極は、その生涯を貫いた「慈愛の心」に集約されるのです。

2. 生い立ちと純粋な精神の芽生え

良寛は一七五八年（宝暦八年）、出雲崎の名主・橋屋の長男として誕生しました。芸術肌の父と深い観音信仰を持つ母の血を受け継ぎ、幼少期から物事を純粋に信じる心を持っていました。父に叱られた際に「親を睨むとカレイになる」と言われ、それを真に受けて海辺の岩の上でカレイになるのを待っていたという逸話は、彼の純真無垢な人間性を象徴しています。

3. 厳しい修行と「乞食僧」としての決意

十八歳で出家した良寛は、備中玉島の円通寺で国仙和尚に師事し、十七年間に及ぶ厳しい修行に励みました。そこでは坐禅だけでなく、薪運びや臼挽きといった日常の「作務」を無心に行う「正念相続」の教えが重視されました。師から悟りの証明である「印可の偈」を授かりましたが、良寛は組織の中での名誉ある地位や寺の住職になることを拒みしました。彼は「一人の民」として生き、托鉢を通じて民衆と直接触れ合う無一物の「乞食僧」としての道を自ら選んだのです。この背景には、道元禅師の教えに基づき、他者を救済しようとする強い「菩薩行」の精神がありました。

4. 「愛語」の実践と現代への普遍的メッセージ

越後に帰国した良寛が特に大切にしていたのが、道元禅師の説く「愛語（慈しみの言葉）」でした。良寛は「慈愛を根底に持つ言葉は暴悪な言葉を消し、和やかな社会を築く」と信じていました。彼は自らを戒める言葉（戒語）として、「自慢をしない」「皮肉を言わない」「人が隠したがることを言わない」といった項目を二百から三百も書き出し、実践していました。相手を思いやり、その心が安らぐように言葉を選ぶこの精神こそ、現代のいじめ問題などの解決にも通じる普遍的な教えであると小島氏は説いています。

5. 芸術と逸話にみる悟りの境地

良寛の精神は、その芸術や数々の逸話の中にも鮮やかに示されています。天上大風：子供のためにタコに書かれた有名な書ですが、そこには「仏の慈悲の風が世の中に吹くように」という深い祈りが込められています。

盗人と窓の月：泥棒に布団を盗まれた際に詠んだ「盗人に取り残されし窓の月」という句は、物質的なものを失っても、自身の清らかな悟りの心（月）までは決して奪われないという、精神的な絶対的自由を象徴しています。

涙の説教：放蕩息子を諭すよう頼まれた際、良寛は一言も説教をせず、ただわらじの紐を結ばせた際に温かい涙をその手の甲に落としました。言葉を超えた慈愛の力に、息子は自らの非を悟り改心したといわれています。

6. 結論：夜空を等しく照らす月のように

晩年の良寛は、自らの光を和らげて俗世に交わる「和光同塵」の境地に達していました。村人と共に盆踊りを楽しみ、自ら女装してまで踊りの輪に加わった姿は、民衆と一体となった救済の形でした。小島氏は、良寛を単なる「優しい僧」としてだけでなく、厳しい禅修行に裏打ちされた深い智慧を持つ人物として捉え直すべきだと強調しています。良寛の心は「夜空を等しく照らす月」のように、何も所有せずとも、静かな光で全ての人々の心を穏やかに包み込んでいます。良寛の生き方を完全に真似ることは難しくとも、その慈愛に一步でも近づこうと努力することこそが、現代を生きる私たちにとって大切なことです。

令和8年度第四宗務所
テレホン(WEB)法話

おしょう こと は
『和尚さんの言の葉』

4月	1日～10日 淵龍寺(阿賀野市) 永島 昌典	5月	1日～10日 海天寺(村上市) 工藤 淳英	6月	1日～10日 林葉寺(南区) 武藤 悠真
	11日～20日 安養寺(五泉市) 権平 一宗		11日～20日 普濟寺(村上市) 角一 大樹		11日～20日 永谷寺(五泉市) 吉原 東玄
	21日～30日 如意寺(新発田市) 寺尾 英人		21日～31日 東陽寺(江南区) 木村 章悟		21日～30日 相円寺(新発田市) 宗像 義順
7月	1日～10日 宝昌寺(新発田市) 桑田 卓道	8月	1日～10日 龍雲寺(中央区) 中村 全孝	9月	1日～10日 白蓮寺(新発田市) 関根 大剛
	11日～20日 常勝寺(新発田市) 栗橋 一徳		11日～20日 智堂寺(北区) 佐藤 慈光		11日～20日 太總寺(胎内市) 林 啓法
	21日～31日 宝来寺(阿賀町) 乙川 大樹		21日～31日 釈尊寺(阿賀野市) 新澤 光栄		21日～30日 雲泉寺(関川村) 神田 恭真
10月	1日～10日 久昌寺(秋葉区) 中野 照明	11月	1日～10日 林昌寺(阿賀野市) 藤田 郁雄	12月	1日～10日 錦繡寺(秋葉区) 目黒 雄生
	11日～20日 吉祥寺(五泉市) 生沼 宏祥		11日～20日 長福寺(阿賀野市) 永島 昌英		11日～20日 観音寺(秋葉区) 阿部 正智
	21日～31日 正雲寺(五泉市) 増井 聡海		21日～30日 長谷寺(胎内市) 安澤 尚永		21日～31日 浄光寺(五泉市) 明田川 佑介
1月	1日～10日 洞照院(五泉市) 塚野 順也	2月	1日～10日 龍源寺(阿賀野市) 小野 利行	3月	1日～10日 西法寺(村上市) 後藤 孝順
	11日～20日 瑠璃光院(阿賀野市) 柴田 正敏		11日～20日 龍泉寺(阿賀町) 稲垣 大應		11日～20日 永泉寺(新発田市) 深井 宗悦
	21日～31日 寿昌寺(新発田市) 大塚 健伸		21日～28日 東福寺(南区) 石高 明雄		21日～31日 延命寺(東区) 薄田 孝道

担当者は変更となる場合があります

テレホン法話 電話番号
0250-47-3132

第四宗務所ホームページ
内でも法話を聞くことが
できます

こちらのQRコードを
読み取ってください
こちらからは過去の法話
も聞くことができます



令和7年度 第四宗務所布教師会 活動報告

期 日	事 業	会 場	内 容	参加人数
5月30日(金) 午後2時開会	総会 春季研修会	宗務所 観音寺	総会 研修会テーマ:「持続可能な寺院と 檀信徒の在り方」 ※研修の内容を宗務所のHPに掲載してます	寺院 15名
9月30日(木) 午後2時開会	夏季研修会	宗務所 観音寺	講師:小島正芳氏 (全国良寛会会長) 演題:「良寛の生涯と逸話」	寺院 25名
11月19日(水) 午後2時開会	秋季研修会	耕雲寺	講師:渡部隆敬大僧正 (胎内市大乘院住職) 演題:「真言陀羅尼あれこれ」 ※実演講習	寺院 15名
12月23日(火) 午後2時開会	テレホン (WEB)法話 研修会	宗務所 観音寺	テレホン(WEB)法話に関する話(宗務所長より) 講師:渡邊宣昭師 (東龍寺住職・特派布教師・ 令和3、7年度布教師養成所主任講師) 演題:「三分間法話に臨んで」	寺院 25名
3月2日(月) 午後2時開会	冬季研修会	秋葉区 文化会館	講師:中野尚之老師 (埼玉県正覚寺住職・特派布教師) 演題:「信心の大事」 ※実演布教	寺院 20名 一般 16名

実演布教 (実演講習)

期 日	氏 名	対 象	演 題
9月30日	市村新五師	一般檀信徒	実演布教と法話作成講義
3月2日	宗像義順師	一般檀信徒	風邪もたまにはいいね
	小山貴大師	一般檀信徒	心念身儀発露白仏すべし



秋季研修会
渡部隆敬大僧正

編集後記

—この度、第五号の会報誌発行に対し皆様に感謝申し上げます。今後も作成に対し皆様からのご意見もお待ちしております。

近年の技術の進歩もあり春季研修会の様子をAIを使いラジオ風に仕上げられています。宗務所HPに掲載されており、ご視聴よろしく申し上げます。

藤田 合掌



総会、研修会風景



冬季研修会
中野尚之老師